市民公開講座：「加賀の工芸と九谷焼」の印象

林 俊 一*

成形加工シンポジア'03で重要無形文化財彩釉磁器保持者（人間国宝）徳田八十吉先生の「加賀の工芸と九谷焼」と題する講演会が行われました。講演はシンポジア'03の参加者だけではなく一般市民に対しても公開され、聴講者は700名を上回り大盛況のうちに終了した。

なお、今回の講演会は、今後の大きな課題であるプラスチック材料の成形加工による高付加価値化について、徳田先生の芸術の本質から学ぼうと企画されたものである。

講演は、100枚にもなるスライドを使用され、加賀藩の成り立ちや芸術振興、主に加賀藩に関連する江戸時代から現代にいたるさまざまな工芸品—古九谷をはじめとする各種磁器、加賀友禅、蒔絵、沈金、象嵌等をご説明され、これら作品群の中での先生の作品の独自性、主張について述べられ、同時に、世界各国でどのように評価されているかについてもふれられた。特に「加賀藩は茶道を盛んにして、工芸品を作る人を増やしただけではなく使う人も増やした」や「古九谷には幼児が描いたような幼稚な絵とすばらしい芸術性を持ったものとが入り混じっている」などユーモアをまじえ、工芸に関する先生の熱い思いが述べられた。

まさに、技術的には成形加工・塑性・加工の一分野である徳田先生の陶芸のお話は、今後の本分野の研究・開発・製造に携わる者に示唆を与えるものであり、プラスチック成形加工学会の特別講演にふさわしいものとなった。

本講演に先立つ1ヶ月前、東京・日本橋三越で古希を記念し、大作を中心とした徳田先生の個展が開催され、案内状を頂いた筆者も拝見に出掛けた。先生が「70年の生涯をかけて大作の限界に挑戦した」とおっしゃる通り、そのすごさ、素晴らしさに作品の前で思わず立ちすくんでしまった（巻頭口絵またはhttp://www.jspp.or.jp/kaishi/color_page/menuJ.htmlに同個展で展示された代表作を示す）。また、個展参加者も老若男女、雑誌、TV等にお見かけする方々等、幅広い層から先生の作品が支持されていることを伺わせた。

今回の特別講演会を快く引受けていただいた事を心より感謝致します。

最後に当日口頭で紹介致しました徳田先生の略歴をここに改めて紹介致します。

徳田八十吉先生（写真提供：北國新聞社）

- 柳雨軒三代 徳田八十吉
昭和 8 年 石川県に生まれる
金沢美術工芸大学中退後、祖父初代・父二代に師事
昭和 46 年 第十八回日本伝統工芸展初出品作「彩釉鉢」
優秀賞 NHK 会長賞受賞
昭和 52 年 第二十四回日本伝統工芸展出品作「耀彩鉢」
最優秀賞日本工芸会総裁賞受賞
昭和 53 年 日本伝統工芸展特待・鑑査員に推挙さる
昭和 61 年 エジプト・カイロにて個展、以後海外展十八回
昭和 63 年 三代八十吉を襲名す
平成 2 年 90 国際陶芸展グランプリ受賞
平成 3 年 第十一回日本陶芸展推選出品作「創生」
グランプリ秩父宮賜杯受賞
外務大臣表彰を受く
平成 5 年 紫綬褒章受章
平成 9 年 第十回 MOA 岡田茂吉賞大賞受賞
重要無形文化財彩釉磁器保持者（人間国宝）に認定さる
小松市に於ける五人目の名誉市民に推挙さる
平成 10 年 「耀彩線文壺」メトロポリタン美術館に収蔵さる
平成 15 年 日本橋三越に於いて古希大作展開催
※文化庁、国立博物館、国立近代美術館、大英博物館、スミソニアン・サックラー美術館等に作品収蔵さる

日本伝統工芸展、審・鑑査員・特待
国指定重要無形文化財
日本工芸会理事
一水会陶芸部運営委員

* Hayashi, Shunichi
三菱重工業㈱先進技術研究センター
横浜市金沢区幸浦 1-8-1（〒236-8515）
2004.1.8 受理